

東葛しぜん観察会(第57回研修会)

野鳥と仲良くなろう

片岡真智子 (野田市)

日 時：2011年1月13日(木) 9時50分～12時45分 天気：晴 風強し

場 所：利根運河・理窓会記念自然公園(流山市)

担当指導員：片岡真智子・渋谷孝子(協力：大木陽子・田中玉枝)

参加者：東葛19名 協議会7名 計26名

樹木、野草、昆虫や小動物その他様々なテーマで毎月開かれる自然観察会。その1つ樹木を例にとってみると、樹木は野鳥の営巣場所、安息場所となり、枯れ枝は巣の材料に、葉や幹にいる虫、木の実や種、花の蜜は食料になります。また食べた木の実の種は糞と一緒に出して運搬役も果たしています。樹木と野鳥はとても深く関わっています。そんな野鳥がもっと身近な存在となり、観察会に仲間入りできればいいなという思いで研修会を開きました。

天気予報どおり、当日は風の強い朝となりましたが、遠方からの参加者(南房総市)を含め26名全員が揃いました。あまりの強風のため、計画していたコースを変更し、スタッフの奔走により急遽、室内で座学をすることとなりました。東京理科大学の学生食堂の片隅をお借りできたのです。

資料に基づいて、双眼鏡の使い方、ものさし鳥(大きさ比べ)、嘴や足の形と食べ物の関係、渡り鳥・留鳥・漂鳥・旅鳥など野鳥観察の基本を研修しました。座学が終わった頃は幸い風も弱まって、11時から12時45分まで利根運河土手と理窓会記念自然公園内をのんびりとバードウォッチングをして歩きました。

カワセミ、マヒワ、シロハラ、ツグミ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、バン、クイナ、コゲラ…フィナーレはカラスと遊ぶ?ノスリの出現でした。公園内の池で休んでいるマガモや淵で日向ぼっこ中のアオサギをフィールドスコープに入れる練習もできました。紫や青に見えるマガモの頭部の美しさに感動の声も聞けました。

今回の研修会が野鳥に親しむきっかけになり、自然観察会の際に「鳥の声が聞こえますね。」とか「スズメよりちょっと大きいかな?」とか一言入るようになればよいですね。帰り道は朝の風がうそのような温かい午後になっていました。

<ふりかえり>

- ① 双眼鏡の使い方の基本が分かり、胸のあたりに調節することで使いやすくなった。
- ② 鳥が居る場所を教えるときに「何時の方向」と言うやり方は分りやすい。
- ③ マヒワが観られてうれしかった。

